

こころが動けば からだが動く

「ふれあいサロン」アンケート調査報告書（抜粋版）

現在、福岡市には、138校区に322か所のサロンがあり、住民による福祉のまちづくりを進める地域拠点として活動しています。

今般、平成25年8月に実施いたしました標記アンケートの集計結果の一部を、抜粋版としてお示しすることといたしました。292か所のサロンから寄せられた貴重な回答は、活動の現状や課題、利用者・世話役・地域にとっての効果等の全体像を具体的に明らかにするに留まらず、サロンのあるべき姿や今後の方向性を導き、要支援者・介護予防者を支える地域包括ケアにおけるサロンの可能性をも示唆するものとなりました。

ここで紹介する集計結果をどのように捉えるのか、活動に携わる方々や、地域の皆さま方で論議していただければ幸いです。

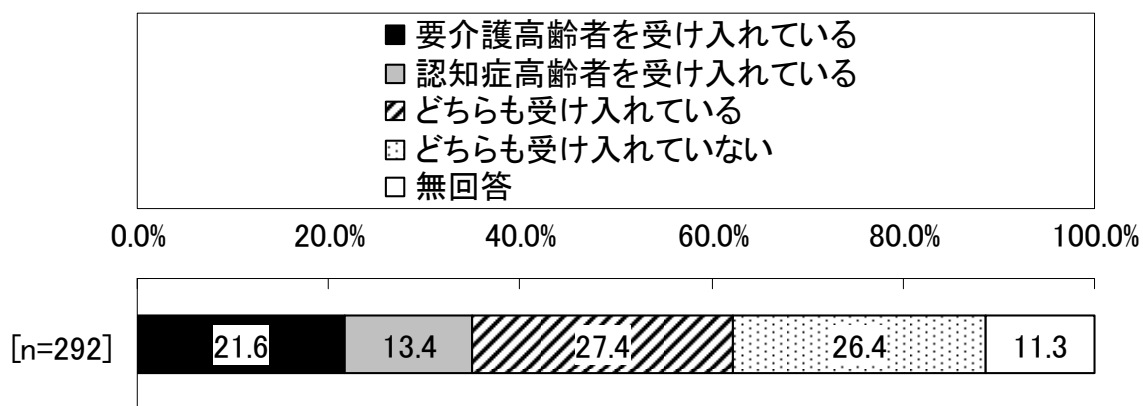
□□ 調査結果から見るサロンの姿

サロンは、規模、内容、運営方法、どれをとっても千差万別で、それぞれに個性的です。全体像を示せば、以下のとおりです。

(1) 利用者

- ◇10人～19人が36.3%、20人～29人が28.8%と多く、平均利用者数は25.0人です（平均4.3人のふれあいネットワーク見守り対象者が含まれます）。
- ◇性別では女性が8割を占め、世帯構成では独居高齢者が32.0%と最も多く（昼間独居高齢者は12.3%）、高齢者夫婦21.0%となっています。7割強のサロンが年齢制限を設けておらず、年齢構成では、65～74歳の前期高齢者が22.0%、75歳以上の後期高齢者が約7割（75～79歳が30.3%、80歳代が33.5%と多い）となっています。
- ◇高齢者以外の利用者を受け入れているサロンが35.3%あり（ボランティアが30人以上のサロンでは66.7%、ふれあいネットワークとの連携があるサロンでは41.7%－「ない」サロンは29.5%－と受け入れ率が高い）、その内訳は、障がい者37.9%、子育て世帯14.6%の順となっています。

問1（2）介護が必要な高齢者や認知症の高齢者の参加を受け入れていますか。



「どちらも受け入れている」(27.4%)が最も多く、「要介護高齢者を受け入れている」(21.6%)と「認知症高齢者を受け入れている」(13.4%)をあわせると、要介護者等を受け入れているサロンが6割を超えています。この結果は、サロンが、現状として介護保険サービス給付の補完的機能を果たしていること、将来的に要支援認定者に対するサービスが介護保険制度から外れた場合の受け皿の一つとなり得る可能性を示すものといえます。

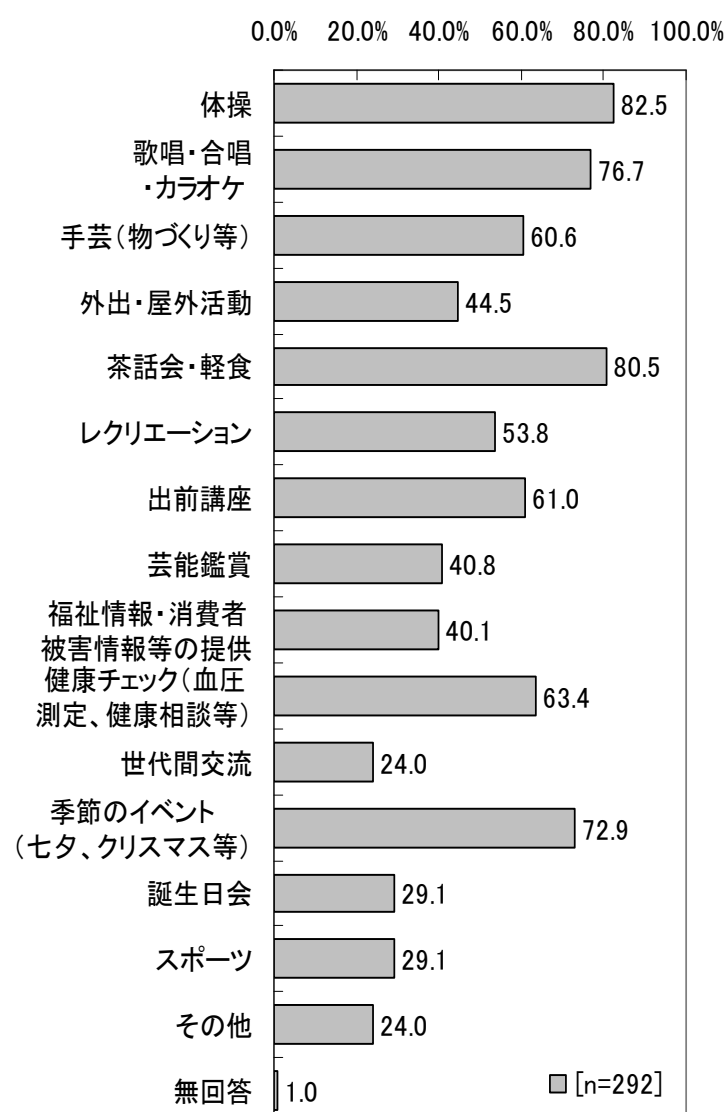
(2) 世話役

- ◇10人未満が43.8%、10人～19人が38.7%と多く、平均世話役数は11.7人です（平均4.1人がふれあいネットワークのボランティアを兼ねています）。
- ◇性別では女性が8割強を占め、所属ではボランティアが53.6%と最も多く、次いで、民生委員22.3%、校区社協役員7.6%、自治会長・町内会長5.9%の順になっています。年齢構成では、50歳代が9.9%、60歳代が40.3%、70歳代が40.8%となっています。

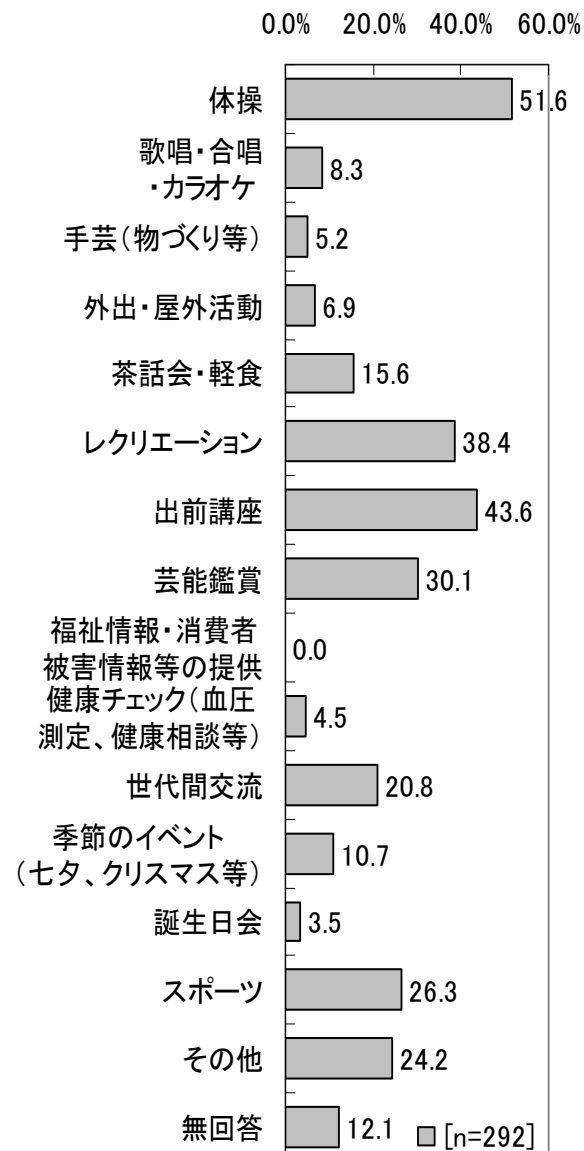
(3) プログラムの内容

問8 どのようなプログラムを実施していますか。

(全 体)



(特に喜ばれているもの)



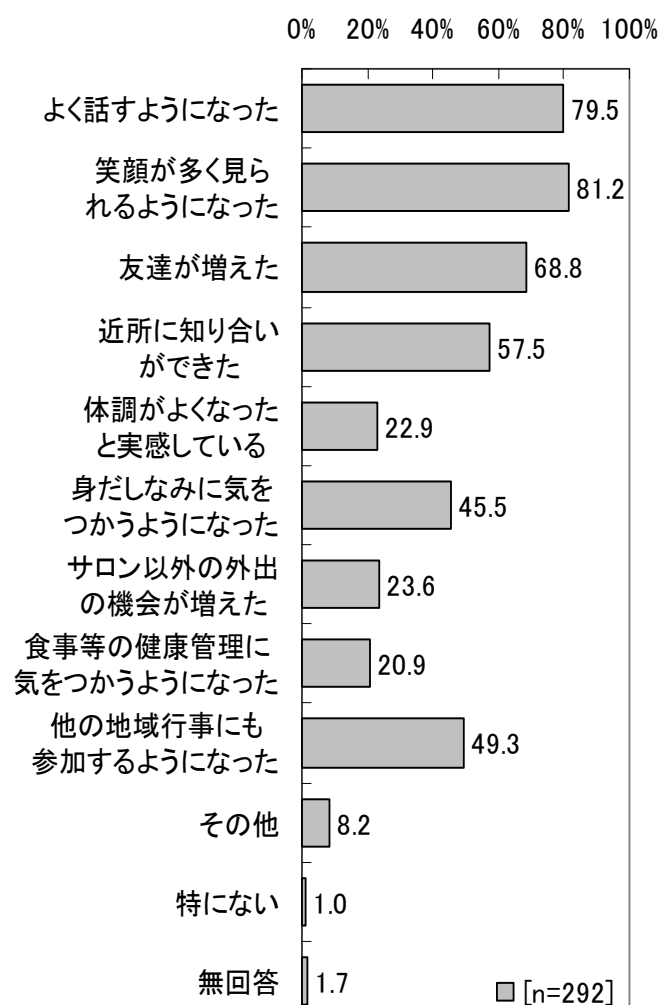
サロンでは、「笑顔とおしゃべりが絶えない時間と空間を提供・創造する場」であることを基本に、「日々、利用者から聞き取りを行う」(57.2%)、「他のサロンの情報を活用する」(42.8%)、「年間計画を立てる際に、利用者からアンケートを取る」(37.7%) などして、利用者に喜ばれるプログラムづくりのための工夫が行われています。

サロンで実施されているプログラムの内、例えば、「健康チェック（血圧測定、健康相談等）」(63.4%)は、食事等健康管理についての意識を高め、「体操」(82.5%)、「レクリエーション」(53.8%)、「外出・屋外活動」(44.5%)、「スポーツ」(29.1%)で無理なく体を動かすことは、体調が良くなったことを実感させるという効果をもたらしています。

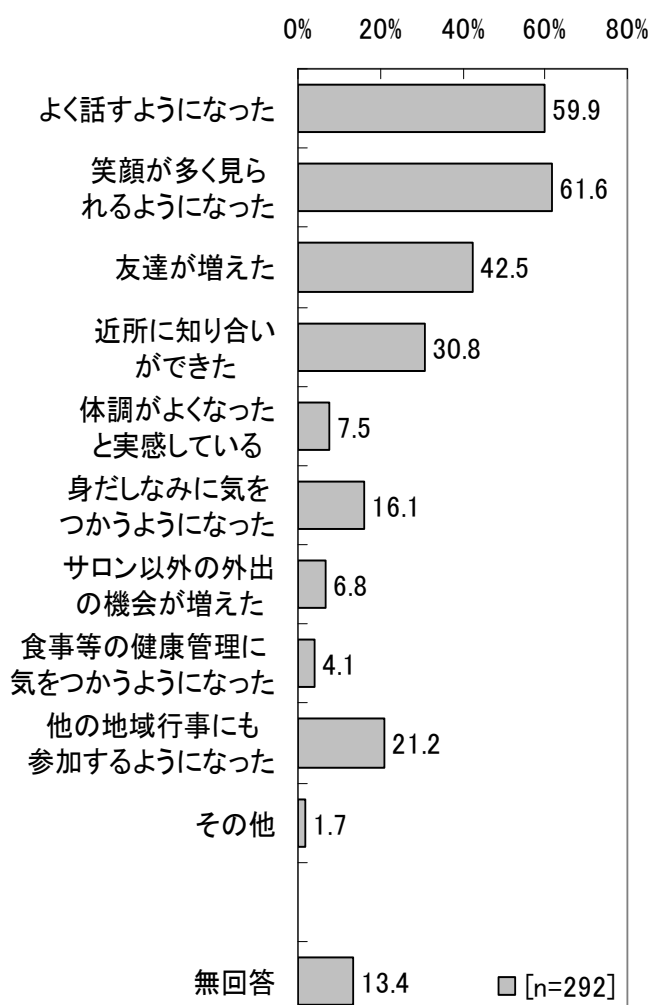
□□サロンには こんな効果があります

問4 サロンへの参加を通じて、利用者にどのような変化が見られますか。

(全 体)



(特に変化があったこと上位1~3位)



利用者にとっての効果

①豊かな日常生活につながっています

サロンの主役として必要とされている喜びが、存在認知と生きがいを高め、「笑顔が多く見られるようになる」(81.2%)、「よく話すようになる」(79.5%)、「友達が増える」(68.8%)、「近所に知り合いができる」(57.5%)等、日常生活の中での変化をもたらしています。

②閉じこもり傾向を改善し、社会参加への意欲を高めています

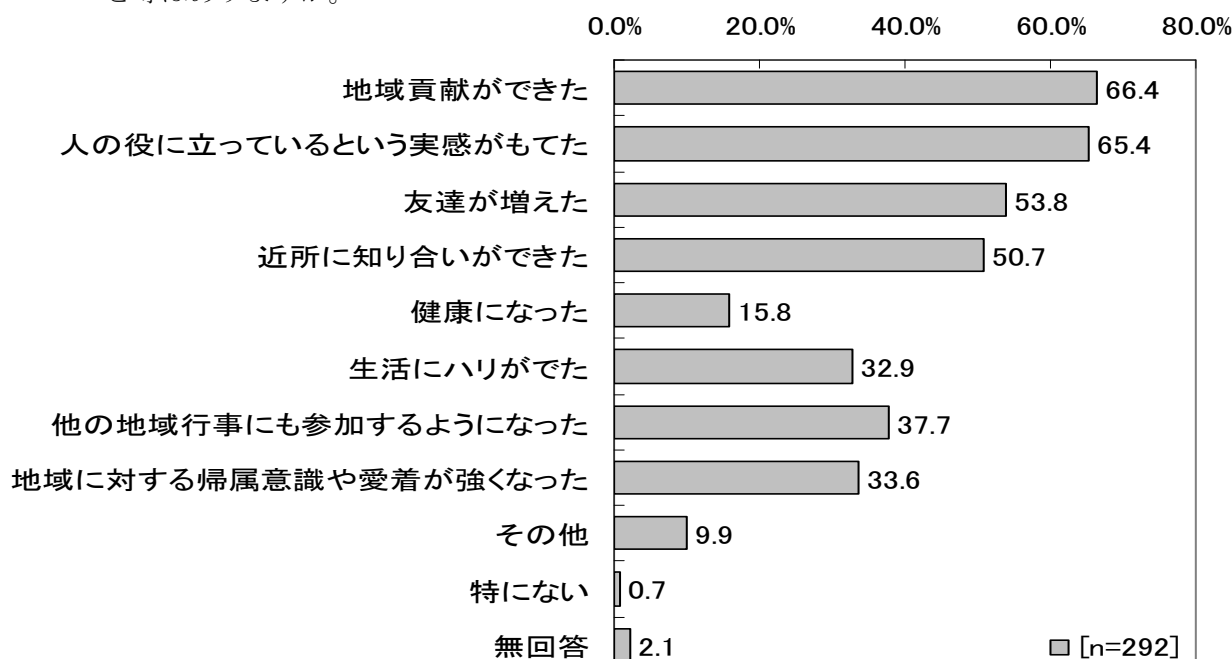
サロンでの人と人の交わりが、閉じこもり傾向を改善して社会参加の意欲を高め、「他の地域行事にも参加するようになる」(49.3%)、「サロン以外の外出の機会が増える」(23.6%)等、地域生活の中での変化をもたらしています。

③人に会う楽しみ等がメリハリのある生活を営むことにつながっています

サロンの日を楽しみに待つこと、人に会うことにより「身だしなみに気をつかうようになること」(45.5%)が、生活をメリハリのあるものにしています。

健康チェックが「健康管理意識を高め」(20.9%)、体操等が「体調がよくなったことを実感させている」(22.9%)という効果については、既述のとおりです。

問10 サロンのボランティアをされていてよかったと思うこと、自身にとってよい変化があったと思うこと等がありますか。



世話役（ボランティア）にとっての効果

① やりがい・生きがいにつながっています

サロンが有用な活動であることの体感、利用者の変化や感謝の言葉が、「地域貢献ができる」(66.4%)、「人の役に立っているという実感が持てる」(65.4%)等、やりがいや生きがいにつながっています。

② 豊かな日常生活につながっています

世話役としての共同体験や交流が、「友達が増える」(53.8%)、「近所に知り合いができる」(50.7%)、「生活にハリができる」(32.9%)、「健康づくりにもなることを実感できる」(15.8%)等、日常生活の中での変化をもたらしています。

③ 地域に対する帰属意識や愛着を強めています

様々な生活歴と暮らしの現実を抱える地域の高齢者との出会いや、地域課題の解決に前向きに取り組んでいる人たちとの協同が、「他の地域行事への参加を促し」(37.7%)、ひいては、「地域に対する帰属意識や愛着を強めています」(33.6%)。

□□ アンケートが教えてくれたこと

アンケート調査の結果は、サロンが果たしている役割を明らかにしてくれました。「**閉じこもりや社会的孤立を防止する地域拠点としての機能を果たしていること**」、「**情報支援や危機管理の場として活用されていること**」、「**要介護者情報を総合化・共有する場として活用されていること**」、「**孤独からくる不安を解消する場として活用されていること**」などです。ふれあいネットワークが、サロンの機能を高める要因として働いていることも明らかにしてくれました

特筆すべき結果としては、サロンの見守り活動としての機能があげられます。サロンへの参加は仲間づくりに結びつくため、「サロン参加者同士の支え合いとして自主的な見守り活動が行われるようになり (57.9%)」、安心のネットワークを強化しています。そして、「サロン開催時以外でも世話役による利用者の見守り活動が行われており (51.0%)」、見守りの精度を高めています。

アンケートの結果は、「サロンは、要介護者等を含めた地域の後期高齢者の交流の場であり (約3割のサロンでは、世話役が送迎を行う利用者のケースを抱えています。)、地域の皆さま方の変なご努力により、『**後期高齢者の地域生活を支える地域拠点としての機能**』を高めつつあること」を、雄弁に語りかけてくれます。

サロンでは、世話役であるボランティアの確保や高齢化、後継者の育成といった課題を抱えながらも、新たな利用者や男性利用者を増やすための工夫や呼びかけが、粘り強く行われています。